



沖縄県で発生した新たな病原菌 *Podosphaera xanthii* によるオクラうどんこ病

沖縄県農業研究センター病虫管理技術開発班 澤 岷 哲 也

はじめに

オクラ (*Abelmoschus esculentus* [L.] Moench) は、沖縄県産野菜の主要品目で、温暖な気候を活かして、主に本島中南部および石垣島、宮古島において春植の露地栽培を中心に、一部にビニールハウスやトンネルを利用した秋植栽培が行われている（沖縄県農林水産部 編, 2014）。しかし、生育初期から収穫期にかけて、葉に白色粉状のうどんこ病様の菌叢が発生し、病勢が進むと葉柄を含む葉全体に症状が拡大して後に褐変を伴い落葉することから、草勢低下が問題となっている。国内では既にオクラうどんこ病の病原菌として、舟形の分生子形態を示す *Leveillula taurica* (齊藤・倉田, 1975) が報告されているが、近年、これとは異なる病徴や分生子形態を示す菌が確認されており、新たな病原による被害の拡大が懸念されている。また、2012年にDNA塩基配列データに基づいたうどんこ病菌の新モノグラフ (BRAUN and COOK, 2012; 高松, 2012) が公表されたが、これに準じた国内におけるオクラうどんこ病菌の分類・同定は検討されていない。そこで、沖縄県で発生するオクラうどん

こ病菌の形態および rDNA-ITS 領域の塩基配列に基づいた同定を行ったところ、国内で未記録の病原であることが明らかになったので、その概要を紹介する。

I 発生状況および病徴

2021年5月に沖縄県中部に位置するうるま市勝連の2地点の施設オクラ（系統名：「FM006 フタバ種苗系統」および品種名：「フィンガー5」）において、初め葉の表側に白色粉状の菌叢が生じ、後に葉全体が菌叢で覆われ褐変する症状が確認された。症状は主に下位葉から発生し、次第に上位葉へ拡大しながら株全体にまん延した（図-1A, B, C）。本症状は、内部寄生性で葉表に淡い黄色斑紋を生じ、葉裏には薄い霜状の菌叢を呈する既報の *L. taurica* (齊藤・倉田, 1975) の症状とはやや異なる特徴を示した。調査した2地点ともに5月時点で60~70%程度の高い発病株率を示した。

II 病原菌の分離

2地点の菌株を得るために、罹病葉上の分生子を9cmポリポットの培養土（与作N-150）で育成したオクラ実

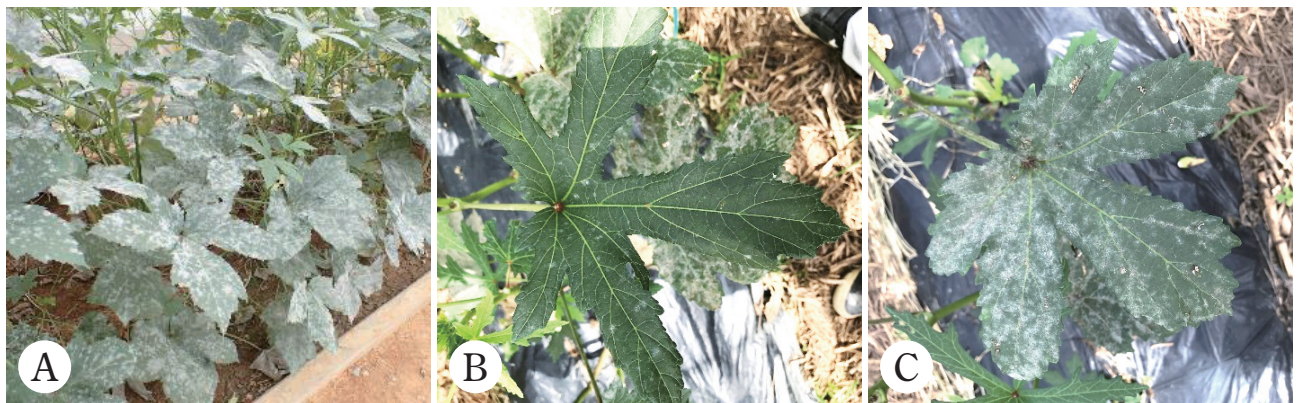


図-1 オクラうどんこ病の葉での病徴
A：下葉からの発生，B：葉の初期病徴，C：後期の激しい病徴。

Occurrence of Powdery Mildew of Okra (*Abelmoschus esculentus* [L.] Moench) Caused by a New Pathogen, *Podosphaera xanthii* in Okinawa Prefecture. By Tetsuya TAKUSHI
(キーワード：オクラ，うどんこ病，*Podosphaera*，ITS)